

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	一般財団法人松本市芸術文化振興財団	
施 設 名	まつもと市民芸術館	
助成対象活動名	公演事業	
内定額(総額)	28,297	(千円)
公演事業	28,297	(千円)
人材養成事業		(千円)
普及啓発事業		(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	兵士の物語2018	2018年9月19日～10月7日	演出・美術：串田和美／翻訳：小宮山智津子／出演：石丸幹二、首藤康之、渡辺理恵、串田和美 他	目標値	3,000
		まつもと市民芸術館 実験劇場 ほか		実績値	2,391
2	TCアルププロジェクト Phase2 Vol.1	2018年11月30日～12月8日	『人間ども集まれ!』2018 森新太郎ワークショップ 出演：TCアルプ	目標値	450
		まつもと市民芸術館 小ホール ほか		実績値	608
3	まつもと市民芸術館+KAAT 神奈川芸術劇場 『Mann ist Mann』	2019年2月8日～2月27日	原作：ベルトルト・ブレヒト／脚色・演出：串田和美／企画監修：白井晃／出演：安蘭けい、串田和美 他	目標値	1,200
		信毎メディアガーデン ほか		実績値	981
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	4,650
				実績値	3,980

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

芸術監督・串田和美の指針のもと「レパートリー作品の上演と巡回」「地域を基盤に活動する団体のクリエイション」「他劇場との共同制作作品」の3事業を実施。今後5年の指標となる4つの柱のうち、①県内のリーディング劇場としての役割を果たす②次世代にバトンを渡す③地域の人材による地域からの発信、の3点を中心とした。

市民ボランティアや市内飲食店との協働、中等学校への貸切公演、上演内容への理解を深めるための事前レクチャーの実施より社会的役割も果たした。

以上により街・市民・文化芸術がそれぞれリンクし、地域コミュニティや文化力の向上に繋がった。

事業番号3は、当館主ホール長期改修明けの初作品として上演予定であったが、巡回を組むには効率的な日程と費用が見込めなかったため、他施設で上演となった。昨年オープンした地方新聞社社屋内のホールで上演をしたことより、新たな観客層を呼び込むことができ、公民連携事業として新たな文化発信の可能性を見出した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

隔年開催の「信州・まつもと大歌舞伎」は経済波及効果が数億円に及び、今後も継続・発展していくことで文化芸術による地域活性のモデルケースとなる。このような大規模事業を開催するためにも、日頃より市民が定期的に舞台芸術に触れられる機会を提供し、文化芸術の土台を固めることが不可欠であり、当館の創造発信事業を継続していく。

さらに、当館の事業を近隣の中等学校に年に1度貸切公演として提供している。若年層の鑑賞機会を定期的に提供することで学校教育とは異なる豊かな想像力を引き出すきっかけを生み、将来的に観客として訪れてもらうことに繋がることを目的としており、次年度も引き続き貸切公演が決定している。

また、地方都市での作品創造は、作品と直接関わらない旅費交通費の支出が多い。しかし、滞在して創造することで、地元との関わりができ、宿泊施設、飲食店への経済波及も効果も認められる。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

本事業においては3本の創造発信事業を行い、内2事業において長野県内2カ所（長野市・伊那市）・県外4カ所（東京都・神奈川県・岐阜県・兵庫県）にて上演した。中でも隣接する岐阜県（大垣市）での上演は開館15年の歴史で初めてであった。今後も継続して交流できる関係性を構築していきたい。また、今回築いた各所ネットワークを活かして、当館制作作品を上演できる地域を増やし、当館の舞台芸術作品の発信に努めていく。

作品面では、ストラヴィンスキーの傑作『兵士の物語』や、地域を拠点に活動する「TCアルプ」による手塚治虫作品を原作としたクリエイション、KAAT神奈川芸術劇場と初の共同制作としてブレヒト原作の串田和美新作公演といった、国内外の作家を起用したバラエティに溢れる作品の発信・提供を達成した。中等学校貸切公演を行うことで若年層に鑑賞機会を提供するとともに、若年層の来場者数の獲得に繋がる結果となった。付随してレクチャーイベント・アフタートーク・市内コミュニティとの共同企画も実施。創造作品を単なる鑑賞機会の提供とするだけでなく、様々な視点から舞台芸術に触れてもらうことで舞台芸術への関心を高める仕掛けを実施した。

観客動員においては、目標値に対し全事業80%を超える達成率となった。特にTCアルププロジェクトは2年前の公演と比べると動員が168%増加し、地域での活動が着実に根付いていることが数字にも現れた。

指標について、当館の既存の幹旋・営業先が20カ所であるのに対して、実質可動しているのが数件であった。そのため、指標として当初と同様の20カ所開拓を目指したが、結果10カ所にとどまった。長期的視野で協力を得られる幹旋・営業先を引き続き開拓していく。

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### ・事業番号1『兵士の物語』

松本公演の上演回数が当初6回だったのに対し、5回に変更になった。補助金の採択状況に応じ、回数を減らすことでランニングコストの削減を見込んだ予算執行を実施した。

#### ・事業番号2『TCアルププロジェクト』

公演においては、当初3回予定のところ4回に増やした。当館で本劇団でのクリエイションを最後に実施した2016年度から2年間で劇団員の増加や劇団単独での自主公演・巡回公演の実施等、活動に広がりがあり、集客を見込めたこと、地域外からのゲストを検討していたが、前述の理由等より出演者を劇団員のみ絞り込んだため、旅費や出演料の削減できた。より地域に根付かせるため、出演者の経験値を増やすためにのクリエイションにするために公演回数を増やした。

ワークショップにおいては、期間が2週間だったのに対し6日間に変更となった。演出家の都合により、日程が変更になり、該当参加者のうち半数が別事業（本補助・事業番号3）の稽古と重なったため、期間を縮小した。そのため、招聘アーティストの旅費等が削減する結果となった。

#### ・事業番号3『Mann ist Mann』

要望書で予定していた日程・会場の変動があった。当初、松本公演は当館主ホールの長期改修工事明けオープニング作品として3月上旬に上演を予定していたが、神奈川公演・松本公演・巡回公演2カ所を組むにあたってスケジュールや費用面で効率的なメリットが見込めなかったため、会場及び実施期間を変更しての上演に至った。

総合的な事業費については、要望書に対し収入が約10%増加、支出（助成対象経費）が約10%削減できた。本補助対象事業以外も含む当館創造発信事業の総決算においては、予算に対し支出が4.2%増加、収入が15%増加となった。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### ・事業番号1『兵士の物語』

サイトウ・キネン・フェスティバル松本（現セイジオザワ松本フェスティバル）と過去4回共同制作をした音楽劇『兵士の物語』を、2013・2014年版の演出を再構築し、当館のレパートリー作品として上演。過去の上演では当館劇場機構に合わせた舞台装置であったため、巡回公演には適さなかったが、舞台装置や演出の見直しより、3回目の上演にして初めて巡回公演が実現した。本作はストラヴィンスキーの音楽と演劇、バレエの3ジャンルより成り立つ作品であり、串田の得意とする多ジャンルの融合を体現する相応しい作品である。事業実施後は、再演を待ちわびていた声と今後の再演希望の声が得られた。

当館主ホールは音響に定評があり、2013年に当館で上演・収録された、サイトウ・キネン・オーケストラ（現セイジオザワ松本オーケストラ）演奏のラヴェル：歌劇『子どもと魔法』（指揮：小澤征爾）のCDが、2016年にグラミー賞のクラシック部門「ベスト・オペラ・レコーディング」を受賞。そのため、劇場ハードを活かすことのできる演劇として音楽劇の上演は欠かせない要素となる。

#### ・事業番号2『TCアルププロジェクト』

芸術監督・串田に師事し、松本を拠点に活動している劇団「TCアルプ」によるプロジェクト。外部より演出家を招き、TCアルプと共に継続的な創造活動を行い地域活性に取り組むアソシエイトディレクターとして地域に根付かせるべく、今後3年間かけて、年に1回ずつ公演とワークインプログレスを実施するプロジェクトであり、今回は2016年度にタッグを組んだ演出家と再クリエイションを試みた。また、これまでゲストとして外部の俳優を起用していたが、今回より劇団員のみでの上演に挑み、串田のビジョンである「地産地消の演劇づくり」の一步となった。

#### ・事業番号3『Mann ist Mann』

KAAT神奈川芸術劇場と初の共同制作『Mann ist Mann』。これまで互いの芸術監督が手掛ける作品を、互いの劇場で上演を互いの芸術監督ならびに劇場同士が数年かけて築いてきた両芸術監督がタッグを組んだ。ドイツの劇作家・ブレヒトの初期の作品で日本での上演機会が少ない『男は男だ（マンイストマン）』を上演。「冬のカーニバル」と題し、1年の中でも特に寒くて外出を控える時期に舞台芸術を上演し楽しんでもらうことを目的に、通常の席とは別に料理付きテーブル席を設け、食事をしながら観劇体験をするという新たな試みを実施した。また、食事付き席以外の席でもドリンク等を楽しめるよう、地域の飲食店等が企画する街づくりイベント「Matsumoto winter walker」とコラボし、企画参加店舗による当日会場での出店に協力を得た。単なる公演でなく、地域コミュニティと協同しての事業実施も、串田特有の演出として今後も継続していく。



左より

『兵士の物語』舞台写真

『人間ども集まれ！2018』舞台写真

『Mann ist Mann』松本公演舞台写真

## 【創造性】

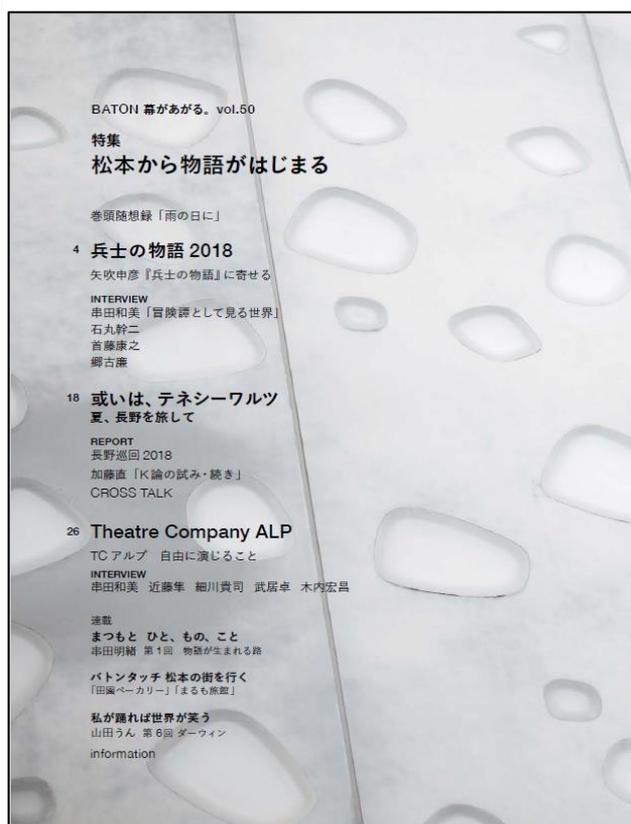
### 自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

この地域・劇場だから観る価値のある作品という声より、地域での創造発信の成果を垣間見ることができた。市民はもちろん地域外からも事業評価を得られており、当館で創造した作品を観るために地域を訪れる層も一定に存在している。

地域飲食店とのコラボレーションについては、別事業にて同様の企画をした際に、協力を得た際に飲食店側より、街の人足が減る冬季を盛り上げるという趣旨が一致し企画の提案を受けた。単発的な繋がりでなく長期的な繋がりを得ることで、劇場と街が繋がりを、そして人へと繋がっていくことに、文化芸術が一つのかけ橋になりえる。以上より、本事業が文化芸術による地域活性に寄与しているといえる。

開催前後には、劇場広報誌「BATON（幕があがる。）」にて事業を取り上げた。作品の上演意図や評論家・アーティスト等による寄稿も掲載。本誌はフリーペーパーとして、市内・県内各施設・飲食店ならびに全国各地の劇場への配布や希望者への郵送をもって活動告知しており、地域の文化芸術の発展に繋がっている。



広報誌一例（左：10月31日発行Vol50 右：3月31日発行Vol60）

## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

2019年度は2本の芸術監督作品の発信と、1本の地域人材でのクリエイションを行う。地域で創造した公演を定期的に巡回し動員を得ている実績より、芸術監督作品の東京公演（東京芸術劇場提携）が決定している。さらには、串田が手本とし尊敬するルーマニア国立ラドゥ・スタンカ劇場・キリヤック芸術監督とも定期的な交流を深めており、当館の継続的な創造発信が評され平成27年以来となるシビウ国際演劇祭の正式招聘受け、海外公演も決定している。

補助金・助成金の運用について、クリエイションへの活用はもちろんチケット料金設定にも活用している。価格を1種に限定するのではなく、年齢によって割引チケットを設定し、若年層の利用者増加を目指す。また、割引チケットを利用し、教育機関へ貸切公演の営業や斡旋を引き続き行う目論見であり、実際に2月に中等学校に貸切公演を実施したばかりであったが、5月開催の芸術監督作品を前年度に引き続き貸切公演として採用していただき、教育機関との連携を存続することができている。

当館の当日運営を支える市民ボランティアは、平成30年度は13事業31公演で294名の参加があった。

2019年4月1日から9月末まで新規参加者の募集を行っており、新規参加者には、10月6日にフロント講座研修会を実施する。

開館も15年を超え、松本市から既存の管理費とは別途に予算を獲得し、平成30年度に実施した主ホール長期改修工事に続き小ホールも2020年1月より長期修繕工事を施行する。また、併せて串田の芸術監督も5期目（1期5カ年）に突入した。残りの任期の指針や計画、任期終了後の劇場の在り方や予算獲得の準備をしていくため、劇場運営実績のある人材を新たにアドヴァイザーとして雇用する方針となったなど、何十年先を見据えた運営管理を行う。